会員各位

NPO法人いせさきはぐろサロンの取り組み

「老後の安心」を企業がサポート

この度はいせさきはぐろサロンの会員になって頂き誠に有難う御座います。

日本は今少子高齢化の中、介護や老後の不安という大きな課題を抱えております。まず「介護離職」等、地域における具体的課題について企業レベルで取り組んでいきましょう！

☆その取り組みの１つをNHK前橋で取り上げて頂きました。

**5月16日（水）**

**NHKほっとぐんま６４０**

「**介護離職を防げ！」**

**で放送されます。**

　また、会員証と、5月24日に上映会「ケアニン」を予定しております。

介護職が直面する課題やお年寄りの認知症を描いたものです。

ご案内をお送りさせて頂きますので是非ご覧ください！

生まれたばかりのNPO法人いせさきはぐろサロンですが、末永くご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

ＮＰＯ法人いせさきはぐろサロン

理事長：櫻場一典

伊勢崎市羽黒町4番地4

電話・FAX　0270-55-4250

櫻場携帯：080-5023-0669



ケアニン上映会のお知らせ

5月24日（木）18時30分開場19時開演

文化会館大会議室

＜今後の取り組みについて＞

―「団塊世代の介護と2040年に向けた地域包括ケアシステムの進化のために」―

* **団塊世代の老後**

息子が結婚して「嫁」という家族が増え「孫」の顔を見る三世代同居家族の数は減り、今や限りなくゼロに近づいている。いつからか？離婚する人も増え、結婚しない人も増えている。家族の形も変わってきました。

団塊世代（昭和22年～24年生まれ）の方は、戦前と戦後の相反するイデオロギーを強制されながら育てられ、男性は企業戦士として高度成長を支え、女性はパートで家計を支えながら働き子供たちを育ててきました。戦後の復興を遂げるため24時間働き続けた世代。人の顔色を伺い、忖度し、豊かになるために働いてきた人達です。そんな団塊世代に「私達のことは心配しないで、自由に生きなさい」と育てられた子供たちは親の介護を積極的にすることはなく、介護保険制度におまかせとなります。

家族関係も希薄になってきている今日、団塊世代の老後に寄り添うには、一緒に暮らせない家族の代わりに心のケア（介護家族）が望まれます。一緒に暮らせることができない家族の代わりに「最後まで一緒に寄り添ってくれる介護家族」が老後の安心に必要なのではないでしょうか。「～あなたでよかった～」と・・・

※参考資料（2013年全国家庭動向調査で、主婦が答えた「家族であるために重要なこと」上位７つ）

**①困った時に助けあう　②精神的なきずな　③お互いありのままでいられる**

　④血縁　⑤日常生活を共にする　⑥法的なつながり　⑦経済的なつながり

* **団塊世代の介護サービス「小規模多機能とは」**

　老老介護やひとり暮らしが多くなる団塊世代の介護サービスは、24時間365日臨機応変に多様なサービスが必要です。なぜなら、**①困った時にすぐ駆けつける。②なじみの関係から精神的なきずなをつくる。**③在宅の継続が可能。そして何より離れて暮らす血縁家族にかわり介護家族になりうること。

また、家族が同居できない団塊世代の介護は、介護保険の限度額いっぱい使わざるを得ません。（介護保険のサービスだけでは足りないかもしれません。）

私の試算では、小規模多機能の推進で介護給付を2割削減できます。また、ケアマネコスト削減、行政監査コスト削減も可能です。介護保険制度の健全な制度運営に小規模多機能型居宅介護の推進が必要だと考えています。

伊勢崎市内の小規模多機能事業所九事業所のうち6事業所がNPO法人いせさきはぐろサロンの法人会員になっています。

* **生活全般のことを気軽に相談ができ、買い物支援もできる仕組みが地域の中に必要**

その介護保険制度も財政的な事情で、重度の方に限定されていく方向となってきています。軽い人は自助又は互助の仕組みの中で支援が行われていくようです。

食品や商品の購入に関して、高齢者は商品情報も乏しく、高額で売りつけられたり騙されたりすることがあります。特にひとり暮らしの方には、生活全般の支援が必要です。地域包括ケアシステムの植木鉢の図を下記に示しましたが、植木鉢の下に商品サービスの購入支援や「助け合い」という互助の仕組みが必要だと考え、近くにそんな支援をするサロンがあったらいいと思い活動を始めました。それが**NPO法人いせさきはぐろサロン**です。

**■誰でも入れる相談窓口としてのサロン**

私達のサロンを常設の認知症カフェといって新聞に掲載されたとき、認知症当事者や高齢者は嫌がって来ませんでした。障がい者、生活困窮者、認知症、引きこもり、等の看板を掛けたら、やはりみんな来ないと思います。だから「サロン」と名付けました。

■**介護以外の課題も抱えている団塊世代**

　　高齢者は自分の介護の事以外にも、家の中に複合的な課題（生活困窮、虐待、障害を持つ子供や孫がいる、後見人がいない等）を抱えていることもあります。

　　　①年金　②子　③孫　④一人暮らし　⑤お墓　⑥家

お年寄りの抱える複合的な課題解決のためにも、地域包括ケアシステムはさらに進化する必要があり、それを可能にするのが介護離職防止に協力する企業の力だと思います。

小規模企業が地域を支える

【介護まるごとコンシェルジュ】

■【**介護まるごとコンシェルジュ】とは**

NPO法人いせさきはぐろサロンでは【介護まるごとコンシェルジュ】を育成したいと思います。コンシェルジュとは「総合世話係」と訳しますが、老後の安心のためには、介護だけでなく、介護の周辺、生活全般の様々なニーズに対応するサービス提供が必要です、そんな商品やサービスの提供も支援します。また商品やサービスの提供する企業様に会員となって頂き、より良い商品をより安く提供していただけるよう協力関係を築いていきたいと思います。

広い意味での老後のニーズに地域全体で取り組み、そのお世話をするのが【介護まるごとコンシェルジュ】です。ひとり暮らしの生活に必要な住宅改修、物品やサービスの割安な購入、アフターケア等にも配慮した地域密着型の小規模で親切な事業所のご紹介を支援致します。老人ホーム、シェアハウス等、住まい探しのご相談もお受けし、見学等のお手伝いも致します。

そんな総合的な介護の周辺のニーズに応えられる知識と実行能力を持った支援員を【介護まるごとコンシェルジュ】と呼び、育成していきます。

　　今、会員企業様も介護の勉強をしています。例えば訪問理美容の会員さんは、介護の資格を取り少しでも高齢者のお役に立てるように努力し、便利屋さんは家の片づけ等を格安な価格で引き受けて頂いています。会員企業の皆さんの中にも、勉強会に参加し【介護まるごとコンシェルジュ】の育成を目指す企業も増えています。

地域包括ケアシステムの進化の形

■**（地域包括ケアシステムの植木鉢）と（助け合いサロン）＝互助の仕組み**



企業が地域を応援する

　助け合いサロン（居場所・相談窓口）

★企業が賛助会員としてサロン運営を支援する。「居場所づくり」

☆サロンに医療・介護・福祉の専門職が集い、相談を受ける。「相談窓口」

☆会員が「介護コンシェルジュ」になるための勉強会を開催。「学ぶ」

　　（会員企業ができる支援情報をサロン内に掲示する）

☆ボランティアさんの活躍を支援する。「繋ぐ」

☆企業様に介護離職防止の支援活動をする。「互助」

※この植木鉢は三菱ＵＦＪリサーチ＆コンサルティング「＜地域包括ケア研究会＞地域包括ケアシステムと地域マネジメント」（地域包括ケアシステム構築に向けた制度及びサービスのあり方に関する研究事業）より引用し、土台をつけくわえた図であり、NPO法人いせさきはぐろサロンの目指す互助の仕組みを図で示したものです。

ご協力よろしくお願いします！